

行田市都市計画マスタープラン 策定委員会

-第3回策定委員会資料-

| | |
|-----------------------------|---|
| 1. 行田市の将来都市像と都市づくりの体系 | 1 |
| 2. 行田市の将来都市像と都市づくりの基本目標について | 1 |
| 3. 目標の実現に向けた主要な課題の設定について | 3 |

平成24年4月12日

1. 行田市の将来都市像と都市づくりの体系

都市づくりの体系

まちづくりの基本理念

「ひとの元気・地域の元気・まちの元気」

将来都市像

水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ

【目標年次】 平成 44 年度（平成 25 年度から 20 年間）
 【将来人口フレーム】 定住人口 70,000 人
 まちづくり人口 83,000 人

都市づくりの基本的な方向

現行都市計画マスタープランの将来都市像「水と緑が歴史と未来をつなぐまち」を受け継ぎつつ、「暮らしの充実」と「にぎわいの創出」を都市づくりの新たなキーワードとした都市づくりを展開

暮らしの充実 にぎわいの創出 水と緑と歴史の継承

都市づくりの基本目標

| | | |
|--|---|---|
| <p>笑顔で暮らす、住みよいまち</p> <p>1 都市拠点の活性化と周辺地域の生活環境の調和がとれたまち</p> <p>2 良好な都市環境が整った交通便利性の高いまち</p> <p>3 子どもからお年寄りまで快適で安心・安全に暮らせるまち</p> | <p>笑顔あふれ、にぎわいを生むまち</p> <p>4 産業・観光により雇用の場が確保され、生き活きと働き暮らせるまち</p> <p>5 市民と来訪者の交流がにぎわいを生み、快適に過ごせるまち</p> <p>6 地域産業が活発な活力のあるまち</p> | <p>行田らしさが光るまち</p> <p>7 美しい水と緑、田園風景が広がる、環境に配慮したまち</p> <p>8 歴史的な街並みや調和のある都市景観が形成され、歴史が息づくまち</p> <p>9 市民と行政、民間等が相互に連携した、市民が主役のまち</p> |
|--|---|---|

実現に向けた主要な課題

| | | | | | | | |
|-----------------------|------------------------|---------------------------|--------------------|---------------------------|-----------------|------------------------|------------------------|
| ① 土地利用に関する課題 1 4 6 | ② 道路・交通に関する課題 2 3 5 | ③ 公園・緑地・自然環境に関する課題 3 7 | ④ 暮らしに関する課題 3 5 | ⑤ 都市の魅力高める施設に関する課題 4 6 | ⑥ 景観に関する課題 8 | ⑦ 歴史・観光に関する課題 5 6 8 | ⑧ 市民参加・情報発信に関する課題 9 |
|-----------------------|------------------------|---------------------------|--------------------|---------------------------|-----------------|------------------------|------------------------|

2. 行田市の将来都市像と都市づくりの基本目標について

まちづくりの基本理念

「ひとの元気・地域の元気・まちの元気」

○快適で住みよいまち ○健康で幸せなまち ○個性を伸ばす教育と文化を育てるまち
 ○産業振興で豊かなまち ○心ふれあうまち

将来都市像

水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ

検討事項・留意点等

⇒将来像は、こども会議の成果を集約して作成。
 ・キャッチフレーズだけでは行田市のイメージが湧いてこない。
 ⇒水と緑と歴史は行田市を象徴するキーワードである。
 ⇒計画策定の中で、独自性のある施策を検討する。
 ⇒重点プロジェクトの設定等により行田らしさを打ち出す。

笑顔あふれるまちとは、住む人も訪れる人も幸せを感じるまちです。そして「住みよく」「暮らしやすい」まちで、誰もが生き生きと楽しく暮らしていることが、訪れる人にとって、最大のおもてなし環境です。「にぎわいの赤」、「うるおいの青」、「やすらぎ、ぬくもりの緑」の3原色を組み合わせ、行田オンリーワンのまちをつくっていきます。古代から現代へ人の営みを綿々とつなぎ、未来をきりひらくまち、これが行田です。現代を生きる私たちは、まちをつくり、育て、発展させ、未来につなげていきます。

将来人口フレーム

【目標年次】 平成 44 年度（平成 25 年度から 20 年間）
 【将来人口フレーム】 定住人口 70,000 人
 （まちづくり人口 83,000 人）
 人口減少の抑制と交流人口の増加促進により、定住人口7万人を目指します。（定住人口と交流人口をあわせた「まちづくり人口」は8万3千人）

検討事項・留意点等

・目指す人口規模によって、土地利用の転換や基盤整備の規模など、やるべき施策が変わってくる。
 ⇒目標とする人口フレームの実現に必要な取組みの重み付けや、施策展開について整理する。

（参考）平成 22 年度国勢調査に基づく人口想定

| 区分 | 平成 44 年度 (20 年後) | 平成 34 年度 (10 年後) |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| 総人口 | 69,413 人 | 81,733 人 |
| 年少人口 (15 歳未満) | 5,844 人 (約 8.4%) | 7,808 人 (約 9.6%) |
| 生産年齢人口 (15~65 歳未満) | 38,203 人 (約 55.1%) | 47,189 人 (約 57.7%) |
| 老年人口 (65 歳以上) | 25,366 人 (約 36.5%) | 26,736 人 (約 32.7%) |

※第 5 次総合振興計画策定時

| 区分 | 平成 32 年度 |
|-----|----------|
| 総人口 | 79,682 人 |

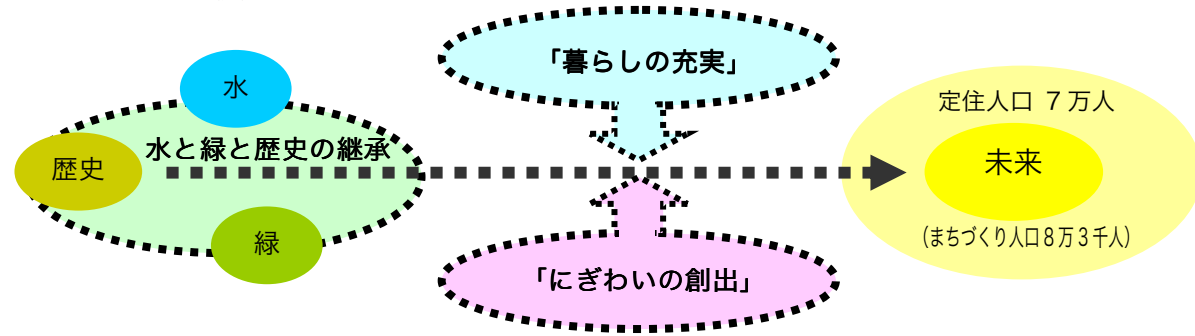
<現状と問題点>

- ・周辺都市と比較して人口の減少傾向が著しく、高齢化も進行。
- ・忍城等の歴史的資源を活用したイベント等により観光客数は増加傾向にある。
- ・地域別懇談会や市民まちづくり会議では、豊富にある行田市固有の自然や歴史資産が結びついておらず観光資源として活用されていないとの指摘が多い。
- ・市民アンケート調査では身近な遊び場などの居住環境・交通の利便性の満足度が低い。特に子育て世代では通勤や子育て環境の満足度が低い。

◎第 5 次行田市総合振興計画 ◎まちづくり埼玉プラン（埼玉県）
 ◎行田市国土利用計画 ◎都市計画区域の整備・開発及び保全の方針（埼玉県）
 ◎新市建設計画 ◎みどりの基本計画
 ◎行田農業振興地域整備計画 ◎行田市環境基本計画
 ◎行田市観光振興基本計画 ◎行田市地域防災計画
 ◎行田市景観基本計画 ◎行田市地域福祉計画（◎上位計画、○関連計画）

都市づくりの基本的な方向

現行都市計画マスタープランの将来都市像「水と緑が歴史と未来をつなぐまち」を受け継ぎながら、少子化・高齢化や人口減少など市を取巻く厳しい社会情勢のなか、定住人口7万人（まちづくり人口8万3千人）の実現に向けて、「暮らしの充実」と「にぎわいの創出」を都市づくりの新たなキーワードとしてまちづくりを展開します。



都市づくりの基本目標

笑顔で暮らす、住みよいまち -暮らしの充実-

- 1 都市拠点の活性化と周辺地域の生活環境の調和がとれたまち
- 2 良好な都市環境が整った交通利便性の高いまち
- 3 子どもからお年寄りまで快適で安心・安全に暮らせるまち

笑顔あふれ、にぎわいを生むまち -にぎわいの創出-

- 4 産業・観光により雇用の場が確保され、生き生きと働き暮らせるまち
- 5 市民と来訪者の交流がにぎわいを生み、快適に過ごせるまち
- 6 地域産業が活発な活力のあるまち

行田らしさが光るまち -水と緑と歴史の継承-

- 7 美しい水と緑、田園風景が広がる、環境に配慮したまち
- 8 歴史的な街並みや調和のある都市景観が形成され、歴史が息づくまち
- 9 市民と行政、民間等が相互に連携した、市民が主役のまち

検討事項・留意点等

・単なるベッドタウンではなく自立した都市を目指すべきである。
⇒行田市が目指す方向性を見定め、整理をする。

・都市軸としてJR吹上駅等との関係も整理する必要がある。

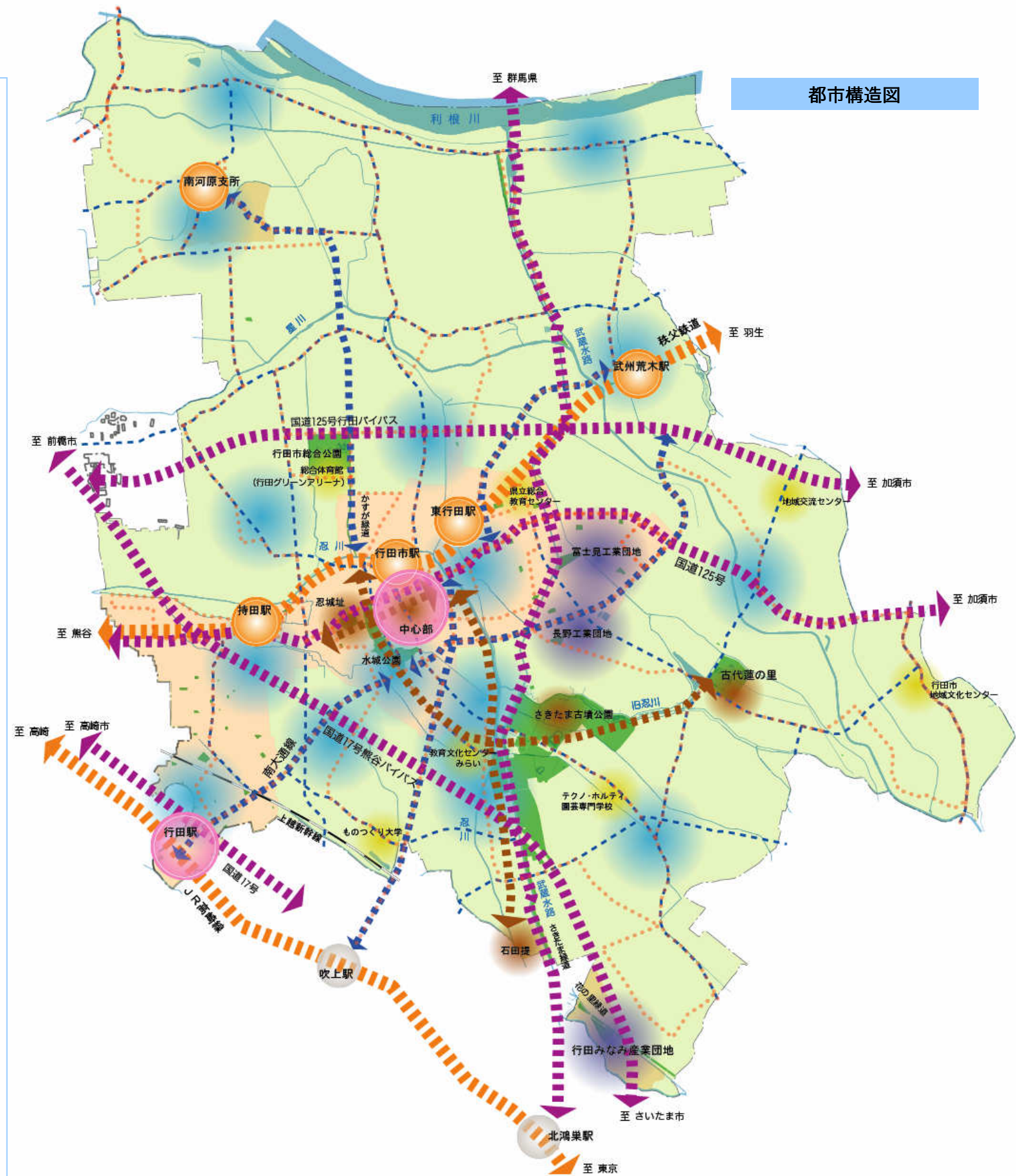
・ポテンシャルの高い前谷地区の土地利用を検討する必要がある。

・にぎわいを創出するためには、まず雇用が重要。郊外への拡大より、既存の工業団地の充実を優先すべきである。

・人口減少が進行する中で、市街化拡大路線ではなく、必要最小限の転換、機能的な整理をする必要がある。

・『コンパクトシティ』の位置付けが必要ではないか。
⇒『コンパクトシティ』とは都市的土地利用の郊外への拡大を抑制し市街地の効率化を図る都市づくりの概念である。計画策定においては、市街化調整区域の土地利用の見直しや郊外部の暮らしの充実化を目標に掲げていることから、表現を控えている。なお、都市機能が集積した都市構造の実現は重要なものと認識しており、施策に展開していく。

都市構造図



| 拠点 | エリア | 軸 | その他 |
|------|-----------------------|------------|------------|
| 都市拠点 | 暮らしのエリア (地域公民館周辺等) | 広域連携軸 (道路) | 公共交通ネットワーク |
| 活動拠点 | 工業団地エリア | 広域連携軸 (鉄道) | 公園・緑道等 |
| | 交流・情報発信エリア | 都市軸 | 河川等 |
| | 歴史・文化エリア | 生活軸 | 市街地 |
| | | 歴史・文化軸 | 周辺地域 |

3. 目標の実現に向けた主要な課題の設定について

目標の実現に向けた主要な課題の設定

「笑顔で暮らす、住みよいまち」

「行田らしさが光るまち」

「笑顔あふれ、にぎわいを生むまち」

① 土地利用に関する課題

■ 将来人口フレームにふさわしい土地利用の実現に向けた、都市機能の再生・集約・転換

- ▶ 市街地の再生と都市機能の集約（中心部・JR行田駅周辺等）
- ▶ 市街化調整区域の土地利用の転換（前谷地区等の土地利用の見直し、国県道等沿道の土地利用の見直し）
- ▶ 住宅地への規制誘導（地区計画・高度地区・建築協定等）の導入による住環境の維持保全・向上
- ▶ 産業を活性化する土地利用の見直し（農・工・商）

▶ 周辺地域の適切な開発の誘導

② 道路・交通に関する課題

■ 道路と公共交通（鉄道・バス）の利便性の向上

- ▶ 生活道路ネットワークの充実
- ▶ 公共交通（鉄道・バス）ネットワークの充実
- ▶ 駅前駐輪場・駐車場の充実

■ 歩行者・自転車利用者に快適なみちづくり

- ▶ 安全で快適に歩いて暮らせるみちづくり
- ▶ 自転車利用を促進する道路環境の整備

■ 広域圏における都市間アクセスの強化

- ▶ 広域幹線道路の整備促進

③ 公園・緑地・自然環境に関する課題

■ 公園整備による住環境の向上

- ▶ 身近な公園・広場等の計画的な整備
- ▶ 公園・広場等の維持管理の充実

■ 水と緑のまちにふさわしい自然環境の維持保全

- ▶ 河川や水路、緑道、自然公園等の整備と維持管理
- ▶ 河川環境の美化と美しい水辺空間の創出

■ 低炭素都市の創出

- ▶ 環境に配慮した都市施設の整備
- ▶ 市街地や公共施設等における緑化の推進
- ▶ 行田エコタウンの創出（道路照明灯などのLED化、レンタサイクルの推進等）

④ 暮らしに関する課題

■ 市民の日常を支える生活環境の充実

- ▶ 高齢者・要援護者の生活環境の向上（身近な商業施設や医療福祉施設等の計画的な配置）
- ▶ 地域交流施設の充実（公民館や小・中学校の再編等）
- ▶ 子育て世代の生活環境の向上（交通利便性の向上）（歩いて暮らせる道路環境の整備）

■ 安心・安全に暮らせる防災・防犯対策の充実

- ▶ 風水害対策の充実と老朽住宅等の耐震化
- ▶ 通勤・通学路等の安全性の向上（歩行者空間の確保、道路照明灯の整備等）

■ 市民の暮らしを支える供給処理施設の充実

- ▶ 上下水道の整備・更新・耐震化
- ▶ ごみ処理施設の計画的な運営・維持更新

⑤ 都市の魅力高める施設に関する課題

■ 中心部における魅力ある都市拠点の再生

- ▶ 歴史あるまちにふさわしい商店街の活性化・再生（魅力ある商店の集約、空き店舗の活用等）

■ 駅周辺における生活支援・交流機能の充実

- ▶ 駅周辺における都市機能の集約・充実（子育て支援施設や高齢者支援施設等の充実、周辺住宅地の有効利用）

・都市拠点の役割・機能の整理が必要。

⇒例えば

- JR行田駅：通勤通学のための玄関（日常）
- 行田市駅：中心部に来る人の玄関（非日常、観光）
- ⇔都市拠点と交通アクセス（JR吹上駅を含む）を整理する。

⇒今後、土地利用構想を作成する上で、都市拠点、都市軸、ゾーニングの整理をする。

⑥ 景観に関する課題

■ 水と緑と歴史のまちにふさわしい景観の創出

- ▶ 歴史的景観資源を活用した街並み景観の創出
- ▶ 水と緑の自然・田園景観の維持・保全（景観ガイドライン、景観に配慮した公共施設整備）

■ 良好な市街地景観の形成

- ▶ 市街地における良好な都市景観の形成（景観条例、地区計画等の規制誘導）

⑦ 歴史・観光に関する課題

■ 歴史資源を活用した地域産業の創出

- ▶ 忍城址・足袋蔵など歴史・文化資源を活用した地域産業の創出

■ 観光資源ネットワークの構築

- ▶ 忍城址とさきたま古墳公園・古代蓮の里等の観光資源のネットワーク強化（道路網・公共交通網・自転車道・歩道）

■ 都市計画と観光施策・事業との連携

- ▶ 観光案内所や道路案内板等の充実

⑧ 市民参加・情報発信に関する課題

■ 市民参加の機会の創出

- ▶ 市民参加のバリアフリー化（環境・情報手段）
- ▶ 継続的な推進体制の構築

■ 市民団体や高次教育施設、民間事業者等との連携

- ▶ 市と高次教育施設、市民団体等が連携したまちづくり計画の構築
- ▶ 拠点整備における民間事業者との連携
- ▶ 公共施設のアドプト制度による維持管理

■ 情報発信体制の強化

- ▶ 広報広聴活動の充実
- ▶ 観光等の情報の一元化